熊本市男女共同参画センター

はあもにい 講座・イベント Report

HARMONY

はあもにいでは、男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会、イベントを開催しています。令和4年度に行われた主なものを紹介します。

はあもにいフェスタ2022トークショー

「わたしらしく、あなたらしく生きるために」

講師:KABA.ちゃん

福岡県出身。1996年に小室哲哉氏プロデュースの音楽ユニット「dos」のメンバーとして芸能界デビュー。その後、タレントや数多くの著名なアーティストの振付師として活動。2002年、性同一性障害を公表。16年に性別適合手術を受け戸籍を女性に変更。20年6月より渋谷区観光大使に就任し、同区と共にダイバーシティ＆インクルージョンを推進している。

男女共同参画について触れ、楽しく学ぶ「はあもにいフェスタ」(昨年11月12・13日開催)。12日のトークショーでは、タレントで振付師のKABA.ちゃんを迎え、性自認に関する悩みを抱えながら自分らしく生きようと模索してきた半生について語ってもらいました。当日は308人が来場し、時には笑い声が上がるなど会場は大いに盛り上がりました。

どうせいじめられるなら自分らしくありたい

物心付いた頃から「自分は女の子、将来の夢はお嫁さん」と性自認は女性だったと語るKABA.ちゃん(52)。小学5年生の時の保健体育の授業で男女に分かれ、性教育を受けた際に「自分は男だったんだ」と現実を突きつけられました。成長と共に体と心の違和感が膨れ上がったようです。

家庭の事情で小学6年生の時に熊本市へ。両親から「男らしくいなさい」と言われ、本来の自分を隠して過ごしていましたが、〝違和感〟を察知したいじめっ子の標的になり、ひどいいじめを受けました。中学進学を機に「どうせいじめられるなら、本来の自分でいこう」と決意。「お前、おかまかよ」とからかう同級生に「そうだよ。なんか悪い?」と強気で返すなど、ありのままの自分をさらけ出したところ、いじめられるどころか、みるみる人気者になっていったそうです。自分を受け入れられた熊本での中学3年間がその後のKABA.ちゃんの心の支えとなりました。

カミングアウトは焦らずに

17歳で本格的にダンスを始め、18歳で上京。ダンススクールで頭角を現し、留学を勧められニューヨークへ。現地で性的マイノリティが周囲から受け入れられ、自分らしくいられる環境に感銘を受けたと言います。帰国し、ダンス講師や振付師として活動する中、音楽ユニット「dos」に加入しました。KABA.ちゃんの事情を知るプロデューサーの小室哲哉さんからは「隠さないでいいんじゃないの?」と言われていましたが、レコード会社などの意向で伏せたまま活動していました。

カミングアウトしたのは、当時出演していた「笑っていいとも!」(フジテレビ)の番組内。「恋愛の話になって、司会のタモリさんが『そういえばKABA.ちゃんの恋愛対象はどっちなの?』って。お客さんもタモリさんも言いやすい環境を作ってくれたんです」

また、自然と公表できたのは、番組出演前に家族に自分が性的マイノリティーであることを伝え、家族がそのことに理解を示し応援してくれたことも大きかったといいます。「無理にカミングアウトしなくても、周囲の状況が整うタイミングが来る」と同じ悩みを抱える人々へ心強いメッセージを送りました。

ナビゲーターの江上浩子さん(RKK熊本放送・中)とタレントの渡辺大輔さん(左)。和やかにトークが展開

女性として人生を歩む決意

カミングアウトを機に仕事の依頼が増え、バラエティ番組でも活動の幅が広がったKABA.ちゃん。恋人ができても体が男性のままということが自分の心のかせになっていました。そんな時、乳がんにかかった姉からの「後悔しない人生を歩みなさい」という言葉に背中を押され「残りの人生、女性として生きよう」と決心。2016年にはタイで性別適合手術と声帯手術を受けました。

現在は戸籍上も女性となり、両親から「一華(いちか)」という名前を付けてもらったそうです。「今後はLGBTQという枠でなく、一人の人間の個性として当たり前に認められる時代にしていきたい」と締めくくり、会場は盛大な拍手に包まれました。

参加者の感想

- 自分のことを認めて、自分らしく生きていくことの強さやすばらしさを感じました。
- 人生のターニングポイントごとに思い切って決断し、自分らしい生き方にたどり着いた姿に勇気をもらいました。

(市民編集員　池田恵美さん)

はあもにい防災出前講座

防災に必要な男女共同参画の視点を学ぼう

熊本地震後からはあもにいが行っている「男女共同参画の視点から見た防災」無料出前講座。今年度は市内の9団体から申し込みがあり、5月から実施しました。

オリジナルの防災ポイントBOOKを用い、はあもにいスタッフが申し込み団体先に出向いて講話を実施(オンラインでも実施)。男性・女性といった性別をはじめ、高齢者、障がい者、外国人、LGBTQなどさまざまな立場によって困りごとは異なります。また、時間の経過とともにそれぞれのニーズが変わってきます。講座では、平時から防災に関する話し合いや準備に多様な人たちの参画が重要であることを伝えました。

今年度の申し込み団体は、女性支援を行う団体や企業、学生、放課後等デイサービス、地域活動に取り組むグループなど。災害が起きた時に支援者となる職能団体などからも申し込みがありました。

参加者からは「災害時には他者を思いやる気持ちが大切だと改めて気付いた」「ジェンダーの考え方が防災にどのように関わっているかを学ぶことができてよかった」という声が寄せられました。

開催場所ははあもにいでも可。ポイントBOOKは参加者全員にプレゼントします

少人数での申し込みOK。対象・希望に合わせた内容で伝えています

「どうしよう…」「どうこたえる?」子どもに伝える「性」の話

性教育を通じて、大人も子どもも幸せに生きるためのポイントを学ぶ

講師の松元かおりさん

寄せられた質問には講師がリアルタイムで回答

子どもに「性」についてどう伝えるか悩む大人は少なくありません。11月22日(火)、子どもに寄り添った対応法や言葉のかけ方などを学ぶオンライン講座を開催。保護者や保育関係者28人が参加しました。

講師は、子どもから大人まで幅広い世代に性教育の重要性を伝えるNPO 法人「せいしとらんし熊本」副理事の松元かおりさん。「恥ずかしい」と隠されがちで、学ぶ機会が少ないまま大人になった人も多い性の話題。しかし性について知ることは、自分を大切な存在であると理解することにつながります。

講座では「性とは何か」を学び、絵本を使って子どもに伝える際に大切にしたいポイントを確認しました。また「赤ちゃんはどこからくるの?」のような子どもからの問いへの返答例や「子どもが何歳まで一緒にお風呂に入っていい?」といった日常生活で気になることなどにアドバイスももらいました。「『自分のことを分かってくれる』と思える人の存在が子どもの力になり、自分自身を大切にする心を育みます」と松元さん。「まずは大人が自分を大切にして。一人で頑張りすぎず誰かを頼りましょう」

参加者からは「大人の都合で説明しようと難しく考えすぎていた。子どもが知りたいことに耳を傾け、一緒に考えていきたい」といった感想が寄せられました。